

おおさかりくち へんせん 大阪陸地の変遷

まん ぜん まんねんまえ
2万3千～2万年前



へいきん きおん いま ど ひく
平均気温が今より6～8度も低いとても
寒い時代で、海面は今より100mあまり
ひく おおさか わん せとないかい ひ あ
低かったので、大阪湾や瀬戸内海は干上
がっていました。

まん せんねんまえ
1万2千年前



さむ じだい お ゆき こおり かい
寒い時代が終わり、雪や氷がとけて海
めん すこ たか かいがんせん
面が少しずつ高くなるころには、海岸線
が今のJR大阪駅のあたりになっていま
した。

やく せんねんまえ
約9千年前



かいめん いま ひく
海面が今より15mほど低いところまで
じょうしょう うえまちだい いこまさんち
上昇しました。上町台地や生駒山地の
にし たにあいだ ろみ はい こ
西の谷の間にも海が入り込んでいました。

やく せん ひゃくねんまえ
約5千5百年前



かいめん が どんどん たか かわちわん 上
海面がどんどん高くなり河内湾と呼ば
れる内海がもっとも大きくなりました。
うえまちだい おおさか わん めん かいがん なみ
上町台地は大阪湾に面していた海岸が波
ほそなが はんとう すみよしく
でけずられて細長い半島になり、住吉区
のすぐ西まで大阪湾がせまっていました。

やく せんねんまえ
約5千年前



よどがわ かわちわん きたがわ う
淀川は河内湾の北側を埋めたていき、
やまとがわ みなみ りくち ひろ
大和川も南から陸地を広げていきました。
そのため、河内湾はしだいに小さくなり
はじめました。

やく せん ひゃくねんまえ
約2千1百年前



うえまちだい きたがわ うみ なみ う 上
上町台地の北側の海には、波で吹き寄
せられたり、淀川により運ばれてきた砂や
いし よどがわ はこ すな
石ころがたまって河内湾の出口がせまく
なつたため、河内湾は淡水の河内湖になり
ました。